

第40回 D-Wind Rally 『栄枯盛衰』 コース案内

<p>はじめに・・・ (今回のコース に対する思い)</p>	<p>『足尾銅山』、教科書で習ったせいか関西にいる頃から知っていた。群馬に来て数年後の冬、その『足尾銅山』を見たくて、上毛電鉄とわたらせ渓谷鉄道を乗り継いで終着駅の間藤まで行った。そこで廃墟となった精錬所跡や荒廃した周辺の山々に、足尾銅山の過去の栄光と現在の寂れた状況を見た。しかし、まだその中には人々の生活があった。古びた長屋風の小さな家々が並び、その家から直接川に流れ込む生活排水はつらら状に凍っていた。足尾の方々には失礼だが、活気が無く、「裕福」と言う言葉とは全く正反対の雰囲気を感じた。更に間藤駅から見上げた禿山の急斜面に、人々の生活を見下ろしているニホンカモシカを見た時、繁栄のために自然を破壊した人間の愚かさを感じた。</p> <p>もう一度その土地を訪れたいと、4年前からコースプランニングをしながら、今日まで手付かずのままであった。4年前のプランは、栃木の前日光周辺の林道を走り、「粕尾峠」を越えて足尾に入りゴールするプランであったが、足尾銅山とともに盛衰を歩んできた旧足尾線＝わたらせ渓谷鉄道の遺構なども紹介するコースに変更した。</p> <p>そしてゴールは、足尾の自然に荒廃をもたらした人間の愚かさとは、また違った愚かさの象徴とも言えそうな場所(施設)に置いた。</p> <p>第40回という区切りのコースで、かなり気合が入っています(笑) コース案内も相当長いので、心して読んで下さい。コース案内を読んだだけでお腹一杯になって、参加を見送らないで下さいね(笑)</p>
<p>スタート ～3CP</p>	<p>スタートは、わたらせ渓谷鉄道の『大間々駅』。PDQM1993年12月号『上州・秋の山里 120km』でスタートになった場所である。このコース、私が群馬に来て初めて参加したコースであるが、ナビに連れ出した息子が途中で車酔いし、途中でリタイヤしたコースで、唯一未完走のコースである。この時足尾の町を初めて通ったが、町の中心の通洞駅に立ち寄りただけで、『足尾銅山』を感じる事は出来なかった。</p> <p>スタートして、DWR1、21、27でCPを置いた事がある「小平鍾乳洞・親水公園」に向かう。この小平親水公園へ向かう県道は、ずっと行き止まりだと思っていたのだが、ある時偶然この道を通った方のHPを見つけ、林道が開通している事が判った。3年前のプランからコース変更した1つの理由が、これである。</p> <p>林道の名前は、『小平座間林道』。東京と神奈川を結ぶ林道ではなく(笑)、旧大間々町と旧勢多郡東村を結んでいる林道である。開通は2002年12月3日で、着工から45年を要したようだ。「基幹林道」と言う位置づけで、国道122号線が災害にあった際、その迂回路としての期待もあったようだ。どう考えても国道122号線が不通の時、この林道が無事とは思えないが・・・(笑)</p> <p>本来の「林業のための林道」として開通した訳ではないこの林道は、杉林の中を通るでもなく、切り出された木が路肩に置かれている訳でもなく、林道らしさを感じず、県道の延長と言う感じがある。ただその分、幅員は林道規格の4mであるが、法面はコンクリートが吹き付けられているし、路肩の草が進路を妨げる事も無く、非常に走りやすく、楽しい道である。ただ、落石がある所は林道らしさを感じる。</p> <p>途中のその名の通り岩穴が本殿の『岩穴観音』に1CPを、小平座間林道の最高点に2CPを置いた。</p> <p> 1CPは馬の神様だそうで、盛んな時は何百頭という馬が参拝に訪れたそうだ。今はかなり寂れているが、立派な神楽殿が残っている所に当時の盛んな様子がうかがえる。</p> <p> 2CPからは、遠くに男体山、眼下には草木湖が望める。一息つこう。</p> <p>林道は、下りに入るとグレーチングの段差が大きくなるので、十分に減速して通過して欲しい。また、麓まで下って来ると着工初期の道になり、かなり荒れた(古びた)道になるので注意。</p>



3CPは草木ダム下に置いた。ここでは、廃線ツアーを味わって頂きたい。嫌がらずにお付き合い下さい。
 先ず、3CPの右手にポッカリ口をあけたトンネルがある。残念ながらフェンスがあり中に入る事は出来ないが。



現在のわたらせ渓谷鉄道は、草木ダムの手前にある「神戸(ごうど)駅」を出た後、5.2kmもある草木トンネルを通る。こんなローカル線には似つかない立派なトンネルであり、その中の軌道は新幹線などと同じスラブ軌道で、私の記憶が間違っていなければレールのつなぎ目がないロングレールが敷かれている。わたらせ渓谷鉄道に乗った時、それまでの低規格の軌道を走るローカル線の気動車が、トンネルに入った途端、高速鉄道になった様な雰囲気変わった事を覚えている。神戸駅と沢入駅の間は、草木ダム建設のため付け替えられた新線区間である。草木ダムの工事が始まってから、新線が完成するまでのわずか約1年半の間使用されたトンネルが3CP右手の廃トンネルである。

わずか1年半のためにトンネルを掘り、渡良瀬川を渡る橋を架けた事、それ以上にダムに沈むローカル線存続のために新線の長大なトンネルを掘った事は、このローカル線の先が『足尾銅山』につながっていた為ではないだろうか？もし足尾銅山が無く、単に旅客だけの路線であったら、ダムの建設を機に廃止されていた可能性もあるのではないだろうか・・・？

トンネル内のレポートは、[こちら](#)。

3CP



次に車を後方にある未舗装の駐車スペースに移動して、その先にある歩道橋で対岸に渡ってもらいたい(クイズを設定しているので渡らざるを得ないが)。ここからは、歩道橋を渡り左手に歩いていった先にある問題Hの場所から歩道橋に戻るルートで廃線跡を紹介したい(神戸駅から沢入駅に向かう方向)。

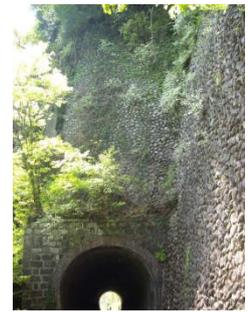


旧線の琴平隧道である。トンネルに入り天井を見上げると、ここを走っていたC12機関車から吐き出された煤がこびり付いている。



トンネルを抜ける辺りで、先にロックシェッドが見えてくる。この柱にはレールが使われている。

トンネルを抜けて振り返ると、垂直に近い状態に丸石を積み上げた擁壁を見る事が出来る。琴平隧道を合わせて見る風景は、鉄チャンでなくても美しいと感じてもらえると思う・・・。



ロックシェッドを抜けると、遊歩道となった廃線跡がダム方向に伸びている。先ほど渡って来た歩道橋の所に来ると廃線跡が広がっているのが判る。これは、歩道橋を付けるために広げたのではなく、3CPの右手にあったトンネルに向かうために、軌道がここで右手にカーブしていたためである。それが証拠に右手にカーブした先には、先ほどのトンネルが見える。また、フェンスの外の左手に、ここから架かっていた橋の構造物の一部か、コンクリートの基礎が残っている。

廃線部分の詳細なレポは、[こちら](#)。

廃線ツアーを楽しんでもらった後は、林道と草木湖湖畔のワインディングを楽しんでもらって、『足尾銅山』に向かおう。6図から入る林道桂戸線は、DWR25で走った道であるが、本来の「林道」としての役目を終えたのか、鬱蒼として、下草が茂り道幅が狭く感じる(実際狭いのかも)。また路面もかなり荒れている所もあり、途中からコンクリートの簡易舗装になる。

コンクリート簡易舗装の結構きつい上りを登りきった地点で林道三境線と合流する。ここに4CPを置いた。林道三境線はDWR25の時、通行止めで通れなかった道である(その為、桂戸線を走った)。4CP地点を右折するとトンネルを抜けて、桐生・梅田に抜ける。大間々を迂回するよりかなり距離が短いため、多くは無いが一般車の通行もある。またサイクリストの通行も多いので注意。

三境線は桂戸線より道幅が広く、また眺望は効かないが上空が空いているため明るく走りやすい。ただ所々大穴が空いている箇所があるので注意。4CPから下り道に入った感覚があるが、しばらくは軽いアップダウンが続く道である。途中から一気に草木湖湖畔下る。



湖畔の快適なワインディングを走り、沢入駅前に5CPを置いた。PDQM1993年12月号『上州・秋の山里 120km』の時、「瑠珈」が答えだった沢入駅の駅名看板は、普通の看板に変わっている。勿論駅舎も建て替えられている。



5CPからは国道122号線を走り(この区間、この道しかない)、足尾に向かう。途中右手の渡良瀬川の川向こうに、わたらせ渓谷鉄道の軌道が見える。所々3CPの廃線跡で見た丸石を積み上げた擁壁などを眺める事が出来る。9図の橋梁は、撮影ポイントのようでカメラを持った鉄チャンがいる。



3CP~6CP

9図先で足尾の町に入る。入ってすぐ『銅山観光』の看板が目に入ってくる。トロッコ電車や通洞坑道内の展示や資料館がある。DWRは、立ち寄りずに通過してしまうが、時間がある方は、立ち寄ってもいいだろう。足尾の町の中心は、駅で言うと「足尾駅」ではなく、「通洞駅」である。町の中心が終わる所に足尾駅がある。試走時はまだ駅前の八重桜が綺麗で、イベント列車のトロッコ列車を待つ人たちが賑わっていた。と言っても3両連結のトロッコ列車の内、2両は不要な程度の人数であるが…。



10図を左折して少し走ると、終着駅の間藤駅が見えてくる。今はトロッコ列車以外は全て間藤駅まで行くが、私が鉄道で訪れた時は、多くは足尾駅止まりであった覚えがある。



以前本坑の精錬所まで続いていた線路は、ホームの先に車止めがあるがまだ残されている。更にその先には、もう鳴る事の無い警報機も錆びた姿で残っている。この踏切跡を過ぎると左手の渡良瀬川の対岸に精錬所跡などが見え始め、長屋風の小さな家が並ぶ街並が続く。

また、木々を失った山々が見えてくる。以前訪れた時よりは少し緑が増えた様な気がする。その時が冬だったためもあるかもしれないが…。



6CPは、銅親水公園に置いた。この辺りは山の上まで重機が上げられ、少しでも失った自然を取り戻そうと治山工事が行われている。足尾砂防ダムの上流側を見ると、周りの山々の状況が信じられないくらい静かな川の流れる。この川の流れるが、田中正造らの足尾鉍毒事件の原因となった鉍毒を下流地域に運び続けた事が信じられない程の穏やかな風景である。



渡良瀬川に架かる銅橋を渡った先には、足尾銅山の歴史や環境について学べる[足尾環境学習センター](#)がある(入場料200円)。

6CP再スタート後、本山坑山跡を通る道で、銀山平へ抜ける。この道も私が持っている地図では舟石峠の手前が繋がっておらず、ずっと通り抜けられないと思っていたが、これも偶然あるHPで通り抜けられる事を知り、コースに取り込んだ。コマ図11図地点には、『銀山平』と書かれた行き先案内板もしっかりあり、かなり前から通り抜けられた様だ。



6CP再スタートから13図まで、足尾銅山の遺構が数多く出てくる。時間が許す限り車を停め味わって頂きたい。

途中、国民宿舎かじか荘の前に7CPを置いた。

6CP~10CP

コマ図13図から14図まで再び国道122号線を走る。14図で林道に入るが、14図にある学校跡は、廃校になった沢入小学校跡で、今は2001年9月に開校した日本で唯一の[サーカス学校](#)になっている。林道の入り口に8CPを置いた。

14図からの林道もDWR25で逆走した林道である。この林道は今でも本来の「林道」の役割を果たしている。8CP先ですぐに杉林に入るが、下草も刈られ、枝打ちもしっかり行われており、木が密集している割に明るい。杉林を抜けると更に開けた明るい道になる。眺望が効き、あづまやがある場所に9CPを置いた。ここは登山口になっており、通る時間によっては、CPの前後のかなりの距離に渡って路駐車が多いので十分に注意して頂きたい。また、登山客以外の車(結構高齢者の方の車が多い)も多いので、注意。



9CPから更に林道を走り、DWR25でも訪れた小中大滝(こなかおたき)に10CPを置いた。久しぶりに恐怖の(?)吊り橋を味わってもらおう(笑) 前回来た時は、川の中にある飛び石を渡って川向こうに渡るしかなかったが、立派な(?)橋が出来ていた。これなら雨が降った後増水していても渡れる。小中大滝は、いつ訪れてもかなりの水量がある。DWR25の時の紅葉の季節と違い、今回は夏にかけての開催であるが、先の吊り橋での冷や汗とあいまって涼んでもらえるのではないかなと思う。



尚、15図を直進した先で工事をしているためか、ダンプが通る事があるので、チェックポイントの処理が終わったら速やかに駐車スペースに移動して欲しい。

10CPを再スタートして林道を下る。途中から県道に変わり、国道122号線に出る。旧勢多郡東村村役場前に11CPを置いた。ここは2001年のDWR11以来である。



役場横にある花輪小学校が廃校になってすぐの時だった(この時は、廃校になった事を知らなかった)。まだ子供の声が聞こえてきそうな雰囲気が残っていたが、8年ぶりに訪れると運動場に幼稚園が出来てしまい、雰囲気が悪くなっていた。ただ校舎は昭和6年に出来たもので、登録有形文化財の指定を受け、『[旧花輪小学校記念館](#)』として、地元の老人の方々によって守られている。

校舎内にはこの小学校の卒業生である、日本鋼管創立者小泉嘉一郎と、「うさぎとかめ」「はなさかじい」などの童謡の作詞者の石原和三郎に関する展示の他、女性写真家の斎藤利江の写真集「昭和三十年代の足尾線の詩」の展示、旧国鉄足尾線の駅名看板などが展示されている。開館は土日みのみの10時から16時の間で、入館料は無料である。開館が土日みのみのためクイズは設定していないが、上記の展示物だけでなく、木造校舎の経験がある人には昔懐かしい学校の雰囲気が味わえると思う。是非立ち寄ってもらいたい。



11CPから花輪駅がすぐそこに見えるが、駅から伸びてくる軌道が変なカーブを描いているのが判る。花輪は役場があったように旧東村の中心であった。今は1面1線式の駅になっているが、以前は島式のホームの1面2線式の駅で交換が出来る駅であった。写真の踏み切りの少し先にポイントがあったのであろう。その時の名残りである。



しばらく、軌道を間近に見ながら走り、国道122号線を経て水沼駅前に12CPを置いた。ご存知、『温泉がある駅』である。ここも過去のDWRで2度ほど訪れたがいつも大広間からカラオケの音が聞こえ賑わっていたが、昨今の温泉ブームが逆風になり、利用客の減少で昨年未閉館に追い込まれた。これも「栄枯盛衰」と言うことでコースに取り入れたが、何とコース試走の1週間前に再開されてしまった…。ま、目出度い事です(笑) それにこの再開に尽力したのが**地元の一個人の方**。以前の様に活気のある温泉センターに戻ることを願いたい。

10CP～FCP

12CPを出てすぐに橋を渡るが、この橋もどう理由か判らないが、完成後一度も塗装されず錆びたままである。渡良瀬川左岸の県道を走り、13CPの貴船神社を通り、上神梅駅の脇から対岸に渡る。最後に私が好きな県道のひとつの333号線を走り、赤城カントリー倶楽部の前から林道で一気に下り、ゴールに向かう。

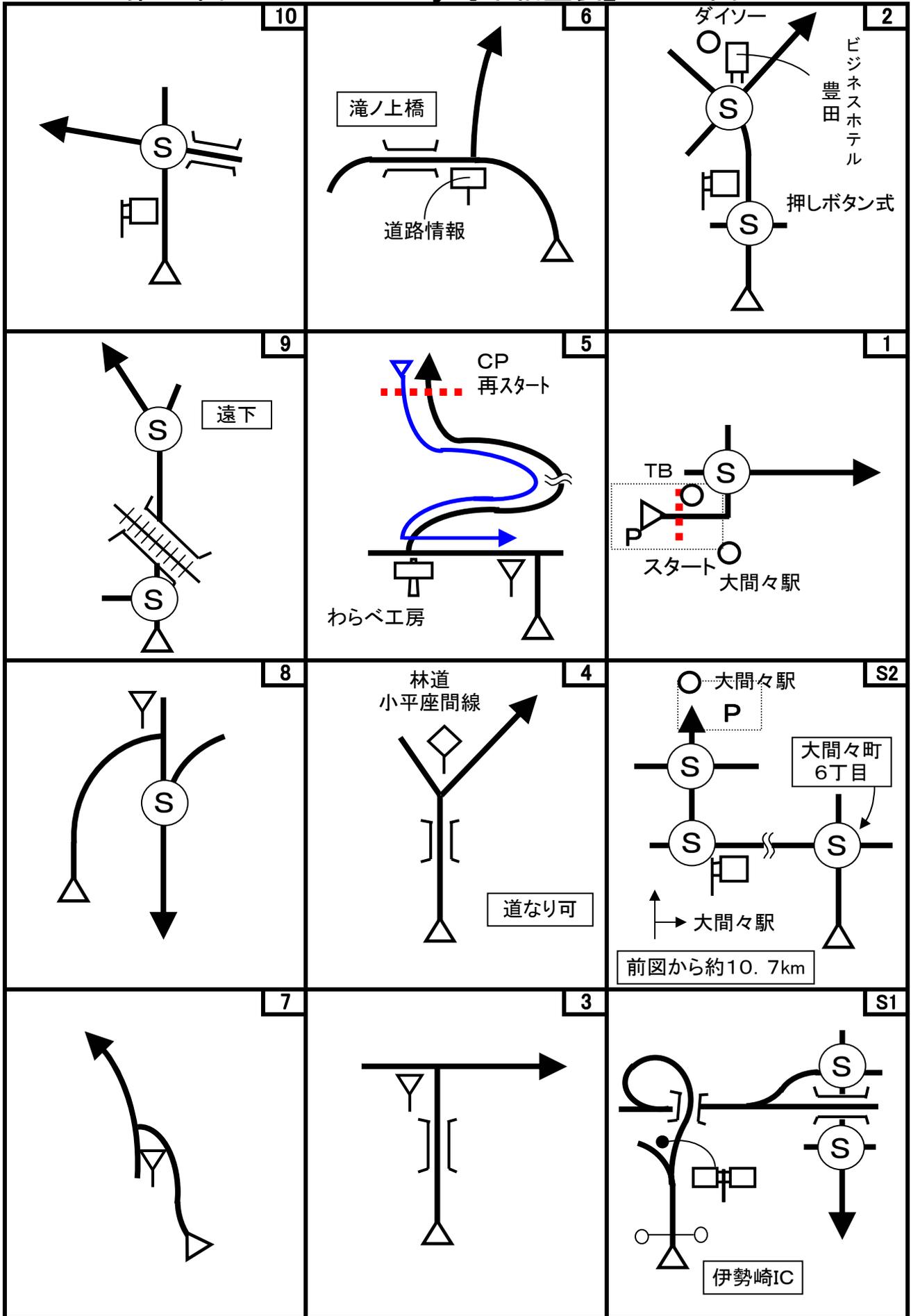
ゴールは、2005年8月にオープンした「**県立ぐんま昆虫の森**」。TBSの『噂の東京マガジン』の「噂の現場」でも取り上げられた場所である。里山を復元し昆虫を子供たちに観察してもらいたいという趣旨はわからないでもないが、元廃棄処分場だった所に**70～80億もの投資をして**、かの有名建築家の安藤忠雄の設計した巨大な温室をつくり、そこに西表島の亜熱帯環境を再現する必要があるのだろうか？ここは群馬であり、群馬ならではの自然を守り、復活させることにその1割でも投資すれば、もっと子供たちに自然を体感させられるのではないだろうか？何か人間の愚かさを感じる施設である。閉園時間が17時と早いので、CPは園へのアプローチ道路の手前に置いた。次回DWR41が今の所、ここをスタートにする予定であるので、ナビがある方は場所を登録しておいて頂きたい。

(おまけ)

里山を復元させると言う点では、旧赤城村(現渋川市赤城町)にある『**赤城自然園**』も同じ考えで作られた。ここはセゾングループの堤清二氏が、人の手が入らず荒れ放題になっていた現地を本来の姿に戻そうと、1982年から手を加えてきた。セゾングループらしからぬ(笑)商売に走らず、年間のわずかの期間だけ開園し、自然を復活させてきた

が、残念ながら今年の3月に閉園した。元従業員だった方がボランティアで維持を続けていくそうである。実は、次回DWR41でここを訪ねる予定であったが・・・。

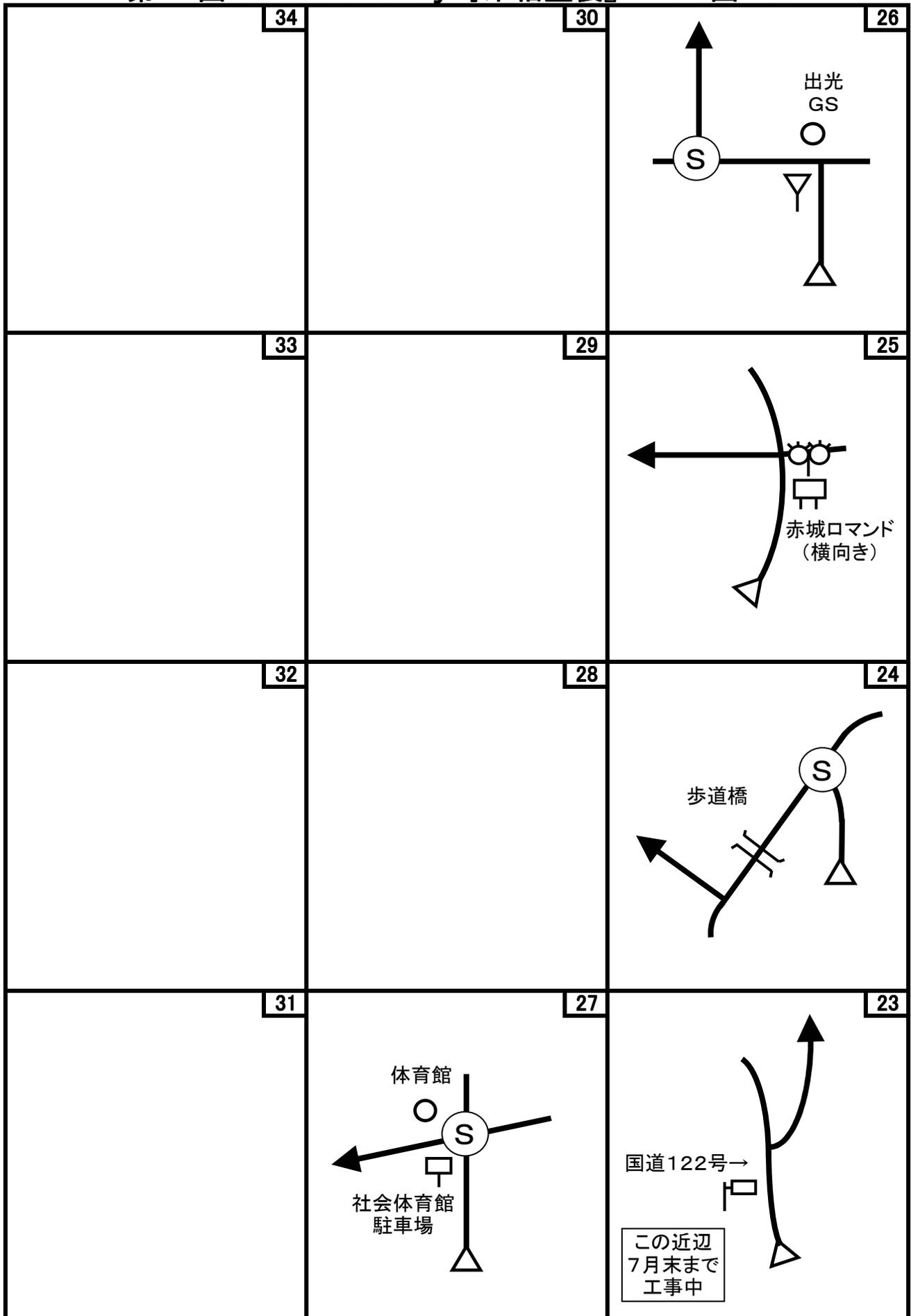
第40回 D-Wind Rally 『栄枯盛衰』 コマ図-1



第40回 D-Wind Rally 『栄枯盛衰』 コマ図-2

<p>22</p> <p>約1.1km先 Y字路 道なり右</p>	<p>18</p> <p>下り 上り 花輪</p>	<p>14</p> <p>約6.5km先 Y字路 道なり左</p> <p>学校跡 大澤寺 歩道橋</p>
<p>21</p> <p>水沼駅 水沼駅 小林 酒店</p>	<p>17</p> <p>みどり市役所 東庁舎 花輪</p>	<p>13</p> <p>S</p>
<p>20</p> <p>上り 道なり可</p>	<p>16</p> <p>近江屋商店 S</p>	<p>12</p> <p>林道 舟石線</p>
<p>19</p> <p>自動車 花輪</p>	<p>15</p> <p>関東ふれあいの道 (横向き) 花輪</p>	<p>11</p> <p>TB 30 花輪</p>

第40回 D-Wind Rally 『栄枯盛衰』 コマ図-3



第40回 D-Wind Rally

CP写真 - 1

『栄枯盛衰』

スタート	OD ここまで 6.161 km	1 CP
1 図 大間々駅前 電話ボックス横(手前角) 速やかにスタートの事	3 図先 小平の里 親水公園 『ひなん広場』看板 左手の駐車場に移動の事	4 図先 岩穴観音 左手の電柱 右手前方に駐車スペース有り
		
2 CP	3 CP	4 CP
4 図先 左手の林道看板	5 図 草木ダム下 『水の広場周辺案内』看板 手前端	6 図先 T字路停止線 (ここは道なり左折)
		
5 CP	6 CP	7 CP
7 図先 沢入駅前 駐車場看板 バス停でもあるので、速やかに左手の駐車場に移動の事	10 図先 『松木溪谷』看板 左手下にある駐車場に移動の事。 再スタートは、Uターンして同じ場所から。	12 図先 『国民宿舎かじか荘』手前 左手の木
		



CP - 2へ

第40回 D-Wind Rally

CP写真 - 2

『栄枯盛衰』

8CP	9CP	10CP - in
14図先 神社横の電柱 速やかに再スタートの事	14図先 東屋の進行方向前方の角 (柱) 左手の駐車スペースに移動の事	15図先 大滝 左手の看板 左手下の駐車スペースに移動の事 ダンプが通る事があるので注意
		
10CP - out	11CP	12CP
駐車スペース出口先の裏向き看板 速やかに再スタートの事	17図先 みどり市東庁舎前 右手の 「進入禁止」看板 右手の駐車場に移動の事	21図 水沼駅前 駐輪場脇の電柱 左右の駐車場に移動の事 (後方にも駐車場あり)
		
13CP	FCP	
22図先 貴船神社 左手の電柱 右手の駐車場に移動の事	27図先 ぐんま昆虫の森 入口手前 左手の電柱 右手前方に「ぐんま昆虫の森」案内標識 あり	
		

第40回 D-Wind Rally 『栄枯盛衰』

問題 - 1

問題 1

各CP間の距離を測定し、補正した距離を求める。

0.01km単位 0.001km単位は四捨五入...減点 = 誤差0.01kmに付き、1点

問題 2

問題A = OD	減点 = 3点	問題B = OD	減点 = 3点	問題C = 1CP	減点 = 3点
ODがある自治体が、埼玉県鳩ヶ谷市と友好都市の提携をしたのは、西暦何年か？		OD近くにある正福寺が「世襲の許可書」をもらったお寺の「山号」は？		岩穴観音の所有者、管理者は誰か？	
					
問題D = 1CP	減点 = 3点	問題E = 4図先	減点 = 3点	問題F = 2CP	減点 = 3点
岩穴観音の神楽殿の横にある消防信号の表示板には、1種類書き加えられている（表示が濃い）。何を知らせる消防信号を書き加えているか？（帰宅後ネットなどで調べて下さい）		林道小平座間線の看板に書かれた自治体名を現在の自治体名に訂正せよ。（旧自治体名 新自治体名の様に解答して下さい）		2CPの眼下に望める湖に架かる赤い橋の名前は？	
					
問題G = 2CP	減点 = 3点	問題H = 3CP	減点 = 3点	問題I = 7図先	減点 = 3点
2CPには林道小平座間線の「起点から7km」の看板があるが、実際走行した距離は何kmか？四捨五入して小数点以下1桁まで答えよ。		3CPの川向こうにある廃線跡のトンネル（琴平隧道）の先にあるこの案内板は、少なくとも何年前に立てられたものか？		沢入発電所の最大出力は、3CPの東第二発電所のその何倍か？四捨五入して整数で答えよ。	
					



クイズ - 2へ

第40回 D-Wind Rally 『栄枯盛衰』

問題－2

問題J=9図先	減点=3点	問題K=10図先	減点=3点	問題L=6CP	減点=3点
足尾駅構内に静態保存されている気動車(キハ35)は、2両連結の時何人の人が乗れるでしょう？(白く塗装された車両も手前の車両と同じと考えて下さい)		間藤駅には紀行作家・宮脇俊三氏のある著書の一部が展示されている。その中で宮脇氏が乗ったタクシーの運転手は、ある物の完成に足尾の将来を期待しているが、ある物とは具体的に何か？		「わたらせ川 源流の碑」の説明板によると渡良瀬川の長さは、DWR40コースの長さより何km長いか短い？四捨五入して整数で答えよ。	
					
問題M=6CP	減点=3点	問題N=11図	減点=3点	問題O=9CP	減点=3点
銅橋の高欄にあるこの装飾の周りに配されているもの(写真の矢印)は、何をモチーフにされたものか？ その用途の意味の名前を答えよ。		「古河橋」の説明板で、現状と明らかに間違っている事は何か？(現地で判断できる事です)		9CP周辺は「狩猟鳥獣の捕獲禁止区域」であるが、何を除くか？	
					
問題P=10CP	減点=3点	問題Q=12CP	減点=3点	問題R=13CP	減点=3点
小中大滝の近くにあるこの看板によると、県自然環境保全地域の広さは？		「桐生市観光案内板」には、わたらせ渓谷鉄道の駅はいくつ描かれているか？		この神社の御祭神の内、水の神様は元々どこの国の神社の神様か？	
					

↓
クイズー3へ

第40回 D-Wind Rally

問題 - 3

『栄枯盛衰』

問題X - 2 ~ 7は、今回は順番に出てきます。

問題X - 1

減点 = 3点

スタートからゴールまでの間に、わたらせ渓谷鉄道と何度交差するか？

問題X - 2

減点 = 3点

この大杉は樹齢約千年を經過していると推測されているが、何をもちて推測しているか？



問題X - 3

減点 = 3点

この石碑が建立された年月は？



問題X - 4

減点 = 3点

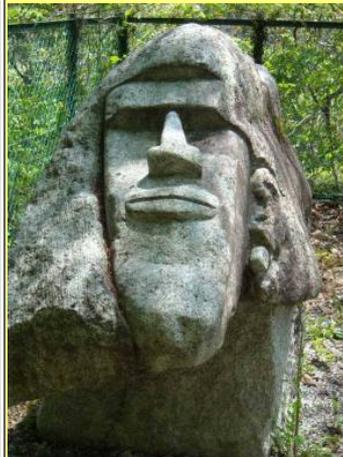
これは何という施設のどこにあるか？



問題X - 5

減点 = 3点

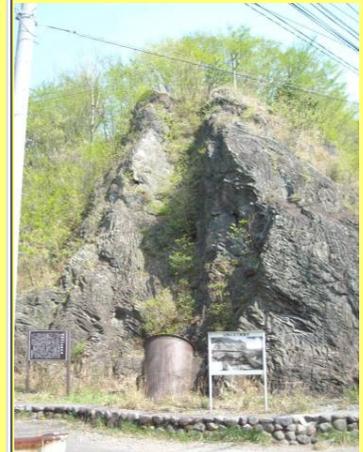
この石像は、何という名前の構造物の近くにあるか？



問題X - 6

減点 = 3点

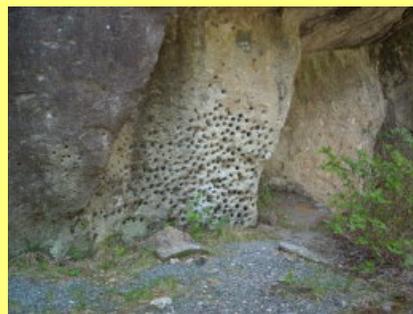
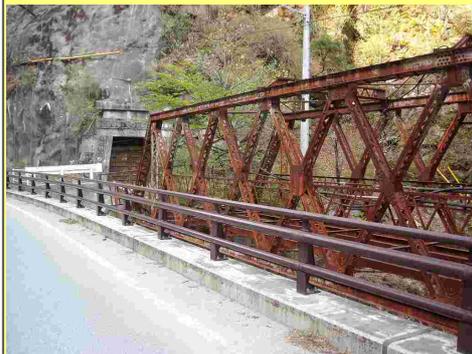
この地にあった水力発電所の鉄管の直径に比して、沢入発電所のそれは何倍か？ 四捨五入して整数で答えよ。



問題X - 7

減点 = 3点

この廃橋と道をはさんで反対側にある岩肌を開いた多数の穴は、何の跡か？



第40回D-Wind Rally 『栄枯盛衰』

解答用紙

チーム名		使用車名	
ドライバー		ナビゲータ	
走行日時	月 日 (曜日)	: ~ :	天 候
成績結果 送付先	住所:〒		
	氏名: TEL:() -		

問題1 解答欄 (0.01km単位で記入)

	解 答	減点		解 答	減点
スタート～1CP	km		8CP～9CP	km	
1CP～2CP	km		9CP～10CP	km	
2CP～3CP	km		10CP～11CP	km	
3CP～4CP	km		11CP～12CP	km	
4CP～5CP	km		12CP～13CP	km	
5CP～6CP	km		13CP～FCP	km	
6CP～7CP	km				
7CP～8CP	km		問題1 減点計		

問題2 解答欄

	解 答	減点		解 答	減点
問題A			問題N		
問題B			問題O		
問題C			問題P		
問題D			問題Q		
問題E			問題R		
問題F			問題X-1		
問題G			問題X-2		
問題H			問題X-3		
問題I			問題X-4		
問題J			問題X-5		
問題K			問題X-6		
問題L			問題X-7		
問題M			問題2 減点計		

集計

申込みNo.	解答用紙受付日	問題1 減点	問題2 減点	減点合計	順位